

教育実習を振り返って

[私立 J 高等学校 保健体育] 氏名：K.G

私は、母校である私学の J 高等学校へ三週間教育実習に行ってきました。実習が始まる前は不安しかなく、前日の夜は、明日からの三週間実習先の先生方とうまくやっていけるかどうか、生徒とコミュニケーションがとれるかどうか、指導案の作成で睡眠時間が確保できるかどうかなど、とにかく頭がいっぱいで実習を終了した後のことまで全く想像できませんでした。そのくらい不安でした。

しかし、実習が始まると想像とは違うことだらけで、ネガティブに考えていた要素がすべてポジティブな要素として考えることができるくらい、環境が整っていました。担当の指導教諭の先生は的確なアドバイスをしてくださるし、自分の担当クラスの生徒達は私の話を非常に真面目に聞いてくれる生徒であったように思います。指導案の作成も空き時間を使用して行ったので、睡眠時間がほとんど削られることはありませんでした。

ただひとつ、これだけはやっておかなければならないのは、教材研究です。こればかりは、いくらやっても終わりがありません。ここまでやったらそれもいいという点が見えてこないものなのです。逆に言うと教材研究をやればやった分だけ、大学での教育実習担当の先生がおっしゃる“ええ授業”が展開できると私は思います。先生が講義中におっしゃっていた「100 考えて、10 話して、1 伝わる。そのためには、1000 勉強しなければならない。」というのは、こういうことかと実感しました。

やればやるだけ、生徒の反応は自分がイメージしているものと同じようなものとなります。やるのは“あなた”です。私は教育実習を終えて「本当に充実した毎日を過ごせた三週間だったな」と感じました。このメッセージを書くに当たり、改めてそう思います。不安はあると思いますが、自分次第で充実した毎日を送ることができると思います。教育実習を実りのあるものにして、頑張ってきてください。